アホウドリ通信

No. 7
2025年12月12日

発行：
（公財）山階鳥類研究所

2025年も暮れに差し掛かってきました。アホウドリの新たな繁殖シーズンが始まりました。これからアホウドリも調査隊も忙しくなってきます。新たな繁殖地である小笠原諸島聟島では、10月から調査隊が入って活動を開始しています。今回は、聟島での保全活動と調査の速報をお伝えします。

■ 2025/26繁殖期　聟島調査　速報！

いつもアホウドリの調査、保全活動へのご支援をいただき、誠にありがとうございます。今シーズンもアホウドリの繁殖期が始まりましたが、皆様のおかげで調査を継続できることになりました。

まず今シーズンは、過去３年間実施できていなかったデコイと音声装置によるアホウドリの誘引を再開しました。アホウドリが繁殖地に戻ってくる前の10月前半に、塗り直してきれいになったアホウドリのデコイたち30体（写真１）（アホウドリ通信第３号「生まれ変わったアホウドリ!?」）を聟島のコロニーに設置しました（写真２）。また、鳥島のコロニーで2023年に改めて録音したアホウドリの音源を使った音声装置も同時に設置しました。音声装置（写真３）は、スピーカー含めシステムを一新し、より良い（自然に近い）音を繁殖地に流すことができました。10月の小笠原はまだまだとても暑く、滞在期間中は日差しが強くて、何往復もデコイや音声装置、電源のためのソーラーパネルなどを運んで設置するのは、いくら水を飲んでも汗ですべて出てしまうほど大変でしたが、なんとか５日間で作業を完了しました。今シーズンに戻ってくるアホウドリたちは、久しぶりににぎやかになった聟島コロニー（写真４）に降り立つことになります。

写真１　塗り直しが終わって出発を待つデコイたち

写真２　アホウドリの気持ちになってデコイを設置

写真３　音声装置一式

写真４　にぎやかな聟島

そして11月には今シーズン最初のモニタリングを実施しました（写真5、写真6）。いつもモニタリング初日は、毎年見られる個体が戻ってきているか、今シーズンの繁殖ペア数はいくつか、新しい個体は飛来していないかなど、期待とそれ以上の不安が入り混じってドキドキします。今回は約1週間の調査の結果、今のところ昨シーズンと同じ3ペアが営巣、抱卵していることがわかりました（写真7）。識別された個体もこれまでとほぼ同じで、昨シーズンまで観察されていた個体が戻ってきてくれていたことが確認できました。まずは一安心です。このまま無事にヒナを孵し、育て、巣立ちまで順調にいってくれることを願います。願わくはもう1ペア営巣してくれているとよかったのですが、なかなかうまくはいきません。聟島の個体群は時間をかけてゆっくりと成長していくようです。今後も粘り強く見守っていきたいと思います。

写真5　どれがデコイでどれが本物でしょうか

写真6　朝6時からアホウドリのモニタリングをしています

写真7　Y01（イチロー、右）とY11（抱卵中）のペアも健在

デコイや音声装置による効果は？？

新たな繁殖地を形成するにあたり、デコイや音声装置による効果はどのくらいあるのでしょうか？　厳密にはできるだけ同じ条件でデコイや音声装置を置いた場所と置かない場所を複数作り比較しなければ、これらの誘引装置の評価はできません。しかし、今回11月のモニタリングでは、若鳥がデコイに向かって求愛行動をして誘ってみたり（写真8）、スピーカーの横で座ってみたりと明らかに反応している行動が何度も観察できました。聟島にも仲間がたくさんいるということを視覚と聴覚でアピールすることで、より多くの若鳥がより長く聟島に滞在することにつながれば、その中でつがいになり、営巣してくれる個体が出てくれるのではないかと期待します。

写真8　デコイに求愛行動をする若鳥